



西房美 (立憲)

農薬を使用しない農業に転換を

問 ミツバチやカエルなどが田んぼから姿を消しており、特に栃木県内では二ホンミツバチが全滅に近い状況にある。

農家は農薬を使わないと大変な手間がかかり、収入にも影響するため農薬を使用しているようだが、他県では農薬の使用をやめて、カエルなどが戻ってきている例もあることから、市においても経済優先の農業から、農薬を使用しない、人の健康優先の農業に転換する時期と考えるがどうか。

答 環境に配慮した持続可能な経済社会への転換を図るため、資源の循環利用や環境負荷の低減などを目指していくことが、

農業にも求められており、堆肥などを使用した土づくりや農薬などの使用低減による環境にやさしい農業の取り組みが必要と考えている。

農薬の使用を5割以上低減する取り組みは、国の環境保全型農業直接支払制度により、少しずつ拡大している。この取り組みは、生産性との調和に留意しながら、農業者の自主性のもとに進められるものであり、国の制度の活用などを通して支援していく。

また、農薬を使用しない取り組みは、生産性を与える影響が大きいため、農業者の自主的かつ総合的な経営判断のもとに行われるべきであることから、県などと連携し、意欲ある農業者へ必要な支援を行うしていく。



その他の質問項目

①ヘルプマーク②錦地区におけるまちづくり協議会と社会福祉協議会と連合自治会



宇賀神文雄 (社民党)

障がい者差別への対応について聞く

問 ①障害者差別解消法の施行から2年が経つが、日本盲導犬協会アンケートの結果から、盲導犬利用者の6割がこの1年間に病院や飲食店で受入拒否を経験したことが分かった。このように社会の理解が進んでいない現状をどう考えるか。

②国は、旧優生保護法に基づく強制不妊手術などの実態の速やかな解明と被害者救済のための立法措置を整えるべきである。全国被害弁護団は、県に相談窓口の設置や各地の弁護団との連携を求めようとしているが、市はどのように対応するか。

答 ①第5次障がい者福祉プランの基本目標の達成に向け、障がいへの理解促進・差別解消の推進を基本施策と位置づけ、盲導犬ふれあい教室など各種事業に取り組んでいるが、差別解消に向けた相談窓口にも相談が寄せられていることから、市民意識の醸成をより一層図り、引き続き共生社会の実現に向け取り組んでいく。

②県が相談に対応する窓口を設置していることから、市に問い合わせがあった場合には速やかに県の相談窓口を案内し、国や県から協力依頼があった場合は適切に対応する。



▲内閣府パンフレット

その他の質問項目

①労働行政②農業振興(米政策の見直し、固定資産税及び都市計画税の軽減ほか)③外国人技能実習生問題④公契約条例⑤東京電力福島第一原発事故への対応⑥タミフルの10代への投与の再開⑦地域内交通のあり方(今後の充実ほか)⑧LRT問題



山崎昌子 (自民党)

日米野球の歴史 更なる伝承のために

問 プロ野球初の最高殊勲選手となった沢村栄治投手や世界のホームラン王ベーブ・ルースが活躍した昭和9年の日米野球の最終戦は宇都宮で行われた。宇都宮常設野球場があった宮の原小学校の校庭には平成16年に顕彰碑が建立され、歴史が伝承されている。子どもたちにとって有名選手がプレーした歴史は誇りであり世界に羽ばたく夢や原動力につながる。

現在、宮原運動公園野球場では再整備の工事が進んでいることから、日米野球の歴史を伝える工夫を検討し、伝承する取り組みが必要と考えるがどうか。

答 宇都宮常設野球場で沢村栄治とベーブ・ルースが対戦したことは市の輝かしい歴史である。日米野球の歴史を伝承し、スポーツへの夢や憧れを育むことは、市の更なるスポーツ振興を図るうえで大切であることから、この歴史的な出来事や顕彰碑を広報紙やホームページで広く紹介していく。

また、宮原運動公園野球場を利用する市内外の競技者や観戦者に、この歴史的な出来事を伝えられるよう、野球場の再整備に併せ、記念プレートを設置などについて競技団体などの意見を聞きながら検討していく。



▲宮の原小の顕彰碑

その他の質問項目

①市長の政治姿勢(公共交通、観光振興、特色ある魅力的な都市空間)②生活習慣病の発症予防・重症化予防③育児参加を推進するイクボス宣言④中小企業の支援(設備投資の支援、ODAを活用した海外展開の支援)